

えらばれる びわ湖大津へ

第3期
大津市観光交流基本計画【概要版】
令和4年3月

第1章 計画の策定にあたって

1. 観光振興に取り組む背景

本市では少子高齢化に加えて人口減少が想定されており、地域経済の低迷につながるものが考えられます。このような人口減少の局面において、地域経済を活性化させるための取り組みの1つが観光振興です。観光を目的とした本市への来訪者による観光消費額を増やすことで、地域全体の経済活性化につながります。

2. 計画策定の目的

観光振興による地域活性化の実現に向けて、本市がどのような方向性で観光振興に取り組むのかを定めるもので、市民・事業者・団体・行政など、全ての人が同じ認識を持ちながら大津の観光を推進していくことを目的とします。

3. 計画の対象期間

本計画の対象期間は、令和4年度から令和7年度までの4年間とします。

第2章 大津市の現状と課題

1. 観光を取り巻く環境の変化

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

訪日外国人が大幅に減少したことに加えて、国内においても外出自粛や営業時間制限などの影響を受け、多くの産業に深刻な影響が生じており、市内の観光消費額も大きく減少しています。

(2) 旅行スタイルやニーズの多様化

個人旅行の増加や旅行目的の多様化に加えて、近隣エリアでの観光の魅力を確認する「マイクロツーリズム」、仕事と休暇を組み合わせた「ワーケーション」や「ブレッジャー」、SDGsを考慮した観光など、新たな旅行スタイルやニーズへの注目が高まっています。

2. 大津市の観光地としての強み

本市の来訪者満足度は上昇傾向にあります。本市の持つ観光地としての強みが旅行先として選ばれる理由となり、満足度にもつながっていると考えられます。



3. 大津市の観光地としての課題

本市の観光振興には改善を求められる課題もあります。課題の背景や要因を把握し、観光消費額の増加につながる施策に取り組んでいくことが今後の観光振興において重要となります。

- 課題 1** 大津ならではの魅力が具体的に認知されていない
- 課題 2** 市内で周遊されているスポット数が少ない
- 課題 3** 再来訪者(リピーター)が少ない
- 課題 4** 閑散期の宿泊客数が少ない

第3章

目指す姿

現在

「びわ湖」以外の観光スポットの認知が十分でなく、市内周遊につなげられていない。また、宿泊客やリピーターの安定確保ができておらず、観光消費額を伸ばせていない状況にある。

4年後に向けて

もっと行きたくなる・
もっと過ごしたくなる
大津

近隣観光地と差別化できる“大津といえばこれ”という観光コンテンツが年間を通して生まれており、周遊や滞在が増えている。

4年後の状態

えらばれる大津[来訪者]
誇れる大津[市民]

「大津ならではの魅力」ある観光コンテンツが広く認知されており、大津に魅力を感じた観光客が多く来訪するなど、市内での消費が増加している。

来訪した観光客に大津の魅力が伝わる様を目にすることで、市民は大津に誇りを感じている。

最終的な
将来像

えらばれ続ける大津[来訪者]
紹介したい大津[市民]

観光以外の目的でも来訪される方が増え、大津を第二のふるさとと感じているファンから「魅力的な地域」として評価され、えらばれ続けている状態となっている。

市民も大津に愛着を持ち、大津の魅力を市内外に向けて積極的に発信している。

地域経済が活性化し、まちに持続的なにぎわいが生まれている。

基本方針

1

オンリーワンを
感じられる
「大津ならではの魅力」
の向上

施策① 新たな興味や認知を獲得するコンテンツの提供

来訪者のニーズに合わせたコンテンツを提供することによって、これまで誘客できていなかったターゲット層からの興味や認知を獲得し、より多くの誘客を図ります。

施策② 付加価値の高いコンテンツの充実

他の地域にはない「大津ならではの」の価値が感じられる魅力的なコンテンツを創出し、その楽しみ方や過ごし方まで来訪者に提案することで、コンテンツの付加価値を高めて、消費単価の増加を図ります。

基本方針

2

安心して観光を
楽しむことができる
環境の充実

施策① 安心・安全な旅の提供

来訪者が安心・安全に観光を楽しむことができるように、感染症対策を徹底するとともに、来訪者が必要とする情報を分かりやすく提供します。

施策② 誰もが快適に観光を楽しむことができる受入環境の充実

誰もが快適に観光を楽しむことができるよう、多様な旅行ニーズへの対応や質の高い人材育成など、受入環境を充実させます。また、二次交通の情報や市内の効率的な周遊情報などの提供を行います。

施策③ 市民生活と調和した、持続可能な観光の推進

市民が大津に誇りや愛着を持ち、自らも紹介したくなるよう、大津の魅力を継続的に市民に伝えるとともに、市民とのコミュニケーションを図りながら、持続可能な大津の観光を推進します。

基本方針

3

来訪につながる
効果的な
プロモーションの
実施

施策① デジタルを活用したプロモーションの展開

観光コンテンツや発信する媒体、発信内容などを整理し、リピーターの獲得にもつながる、その時々に応じた効果的かつ戦略的なプロモーションを実施します。

施策② 機会を捉えた情報発信の強化

映画やドラマなどで注目されるタイミングやイベントの開催などに合わせて本市の認知度向上及び誘客を促進するため、機会を捉えた的確な情報発信を行い、「大津ならではの魅力」をアピールします。

施策③ 来訪者の目的に沿った販売促進

国内外からの様々な目的を持った来訪者の誘客を推進するため、ターゲットとする来訪者の傾向を分析し、ターゲットの目的に適した効果的な販売を促進します。

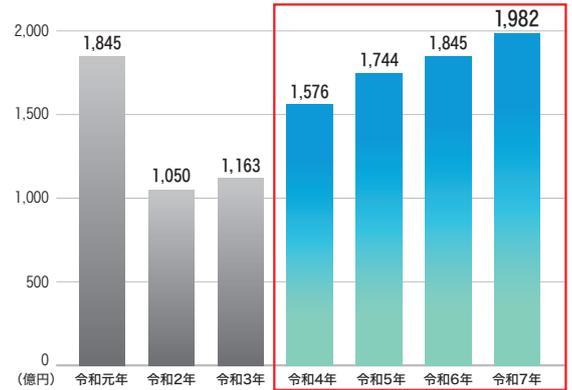
第5章

数値目標（KPI）

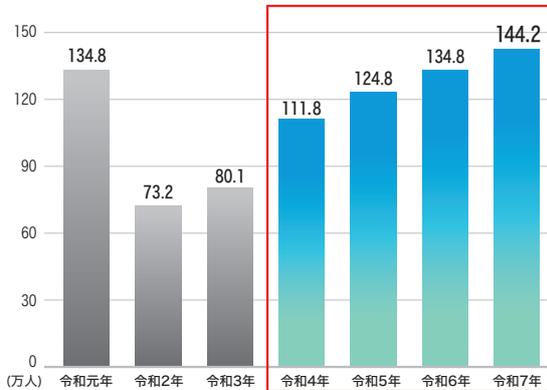
本計画では、「目指す姿」の実現に向け、各施策の進捗状況を確認するために数値目標（KPI）を設定します。

なお、観光消費額、総宿泊客数及び外国人宿泊客数については、令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、令和4年度以降は可能な限り早い回復に取り組み、本計画の最終年度である令和7年度にはコロナ禍以前の水準を上回っている状態を目指すものとして設定しています。

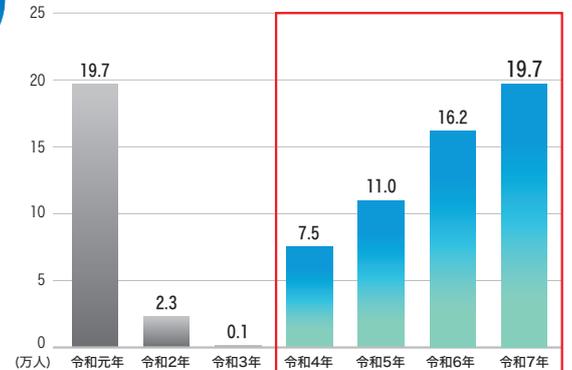
観光消費額



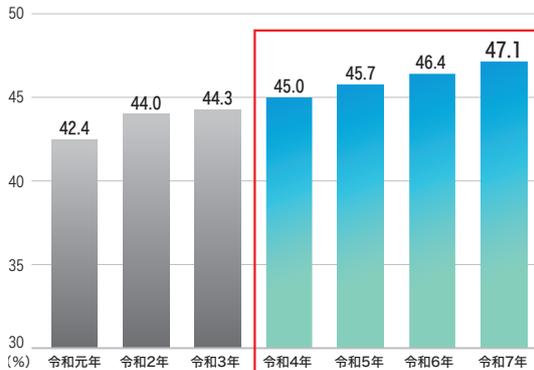
総宿泊客数



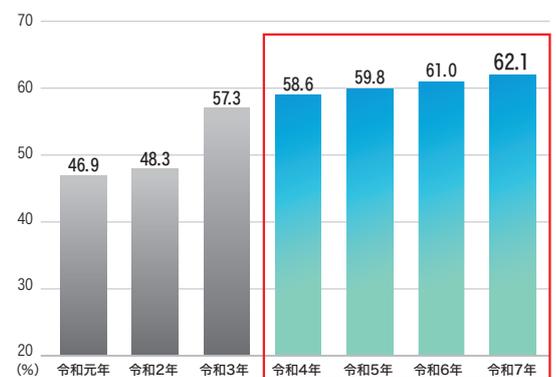
外国人宿泊客数



リピート率



来訪者満足度



観光消費額・総宿泊客数・外国人宿泊客数の令和3年数値は速報値であり、確定値ではありません

第6章

計画推進体制

本計画を推進していくためには、大津市・観光協会・関係団体等が連携して取り組んでいく必要があります。

関係者が一体となって観光振興に取り組むことで、近江商人の経営理念でもある来訪者（買い手）・事業者（売り手）・市民や地域社会（世間）の「三方よし」を実現し、観光消費額の増加・地域経済の活性化を目指します。

